

令和6（2024）年度 東京都立山崎高等学校 学校経営報告

○東京都教育委員会目標

・スクール・ミッション

○スクール・ポリシー

・グラデュエーション・ポリシー ・カリキュラム・ポリシー
・アドミッション・ポリシー

○本校の教育目標と目指す学校

- ・ユネスコスクールとしてESDの推進拠点となる持続可能な教育実践に取り組み、自らの行動に自信をつけさせ自己肯定感を高める教育活動を通じて、生徒一人一人が変化する社会に柔軟に対応する力（知識・技能・思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力）を培い、共に挑戦し学び続ける心身の構えが身に付いた生徒を育成する。
- ・生徒の心身の安全と秩序の維持を最優先した教育活動を通して、（敬愛）互いの人権を尊重し、（協働）協力し合いながら、生徒一人一人が将来の夢や希望をかなえるために、（克己）自分の弱さを克服し、（高志）志を高めて自ら学びに向かおうとする姿勢を養い、18歳成年年齢を踏まえた立ち居振る舞いができる主権者を育成する。

○本校のグランドデザイン

Anniversary 40th
since 1983

山高魅力化プロジェクト

18歳成年に相応しい立ち居振る舞いができる主権者の育成

- ・教育課程実践検証協力校 ESD（国立教育政策研究所）
- ・ユネスコスクール（日本ユネスコ協会）
- ・生成AI研究校（教育庁総務部情報企画）
- ・AI教材活用推進校・学力向上研究校（教育庁指導部高校教育改革）

○町田市・山崎町と緊密な連携

- ・町田市立山崎中学校、町田市立七国山小学校、正和幼稚園、町田青年会議所等と連携した教育活動
- ・東京都町田市への郷土愛の更なる育成・山崎高校生の町田市・山崎町への理解伸長
- ・地域の課題解決へ貢献（防災・防犯・地域活性化）

○高大連携

- ・桜美林大学、玉川大学、東京家政学院大学等との連携

観点	中期的目標と方策	今年度の教育活動の目標と方策	重点目標と方策	自己評価・報告
学習指導	<p>■ 「東京型教育モデル」を実践し、習熟度や進路希望等の個性や能力を踏まえた個別最適化を推進</p> <p>【目標】 Society5.0 時代を切り拓ひらくイノベーション人材を育成</p> <p>【方策】</p> <p>1-1 カリキュラム・ポリシーに基づき、教科会、教科主任会、職員研修連絡会を開催して、学力分析、学習指導分析等を深化させ、組織的に生徒の学力の向上を図ります。</p>	<p>【目標】 一人ひとりの個性や能力に合った最適な学びの実現</p> <p>【方策】</p> <p>2-1 生徒同士の学び合いの時間と振り返りの時間を全ての授業に組み込み「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進します。</p> <p>2-2 教科主任会議を時間割（木曜1時間目）に組み込み、「入学選抜」「模試」「共通テスト」等の分析を行</p>	<p>【目標】 全ての生徒に確かな学力を育む教育</p> <p>【方策と数値目標】 町田市立七国山小学校及び町田市立山崎中学校と連携して、相互の授業見学と合同研修35名以上参加</p> <p>3-1 一人ひとりの個性や能力に合った最適な学びの実現を図るために、説明中心型の授業ではなく、生徒が主体的に活動することによって、学ぶ意欲や思考力・判断力・表</p>	<p>評価【C】</p> <p>町田市立七国山小学校及び町田市立山崎中学校と連携した相互の授業見学と合同研修への参加者数、5名</p> <p>4-1 「学びたくなる授業」づくりの工夫と定着を図っていたが、授業満足度は69%と昨年度を下回った。一層の工夫が必要である。</p>

	<p>1-2 カリキュラム・ポリシーを徹底し、すべての教育活動の質の向上を目指すために、TOKYO スマート・スクール・プロジェクトに基づき、教育のデジタル化を推進します。</p> <p>1-3 ユネスコスクールに相応しい持続可能な開発に向けた教育（ESD）を、すべての教科・科目と、すべての学校行事等に織り交ぜて「主体的・対話的で深い学び」の実現と探究能力の向上を図ります。</p> <p>1-4 教科指導のなかで、興味関心や能力が高い生徒、または、将来の進路実現に向けて、プラス（入試や進路選択）になると考えられる生徒については、「ビブリオバトル」「スピーキングコンテスト」「サイエンスフェア」等の大会やコンテストへ意図的に参加を働きかけて、一人ひとりの個性や能力にあった最適な学びに取り組みます。</p> <p>1-5 ICTの活用によって、生徒一人ひとりの力を最大限に伸ばします。</p> <p>1-6 生成AIの活用について研究します。</p>	<p>うとともに、教科書選定や教育課程、観点別評価やICT活用、施設・設備活用と充実等について共有化・共通化を深めて、学力向上を図ります。</p> <p>2-3 習熟度クラスを設けて、個別最適な学びと協働的な学びを活性化させ、意欲の高い生徒の向学心を高めさせて、全生徒の意欲の向上を図ります。</p> <p>2-4 全教員が、年間2回（3回）授業を動画撮影して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と授業力の向上に取り組みます。</p> <p>2-5 各教科のシラバスを活用して、各教科で統一した授業規律等の徹底を図り、規範意識、公共心、道徳教育の充実を図り組織的な対応を徹底します。</p> <p>2-6 1学年及び2学年においては、ノートアプリ（MetaMoji Classroom）等を活用した授業を実施するなど、デジタル化を推進します。</p> <p>2-7 AI教材を活用して、学力向上を図ります。</p>	<p>現力を向上させるために「学びたくなる授業」づくりの定着化を図ります。</p> <p>3-2 道徳教育と連動した防災教育やボランティア活動等を通して、社会に貢献する人材や思いやりの心の育成を図ります。2・3学年では「総合的な探究の時間」において、フィールドワーク等を通じた探究活動を実施し、生徒の興味・関心を喚起し、主体的な判断力を養い、課題発見能力や問題解決能力を育成します（1学年ではスライド発表、2学年では山崎サミット、3学年ではポスター発表を評価の観点とします）。協働的な学び。</p> <p>3-3 定期考査を3回に減らし、小テスト等の授業内評価や単元別評価を重視して、よりきめ細やかに習熟度を図り、個別最適な指導に取り組みます。</p> <p>3-4 町田市立七国山小学校及び町田市立山崎中学校と連携して、相互の授業見学と合同研修を年2回以上実施し、授業力の向上を図ります。</p>	<p>4-2 防災教育では、4月に新たに災害時の帰宅訓練と1学年対象の防災訓練を実施、1月に上級救命講習を実施した。ボランティア活動への参加生徒はのべ170名と昨年度を上回った。今後も一層の充実を図る。</p> <p>4-3 小テストなどの授業内評価が充実してきたため、各教科ごとの調整が必要となってきたため、次年度は拡大教科会にて調整を図る。</p> <p>4-4 町田市立七国山小学校及び町田市立山崎中学校と連携した、相互の授業見学を3回と合同研修を年2回実施したが、本校の学校行事の振替休業日や考査期間と重なり、昨年度よりも参加者を増やすことができなかった。次年度は早い段階から各校の年間行事計画を確認して、日を設定する。</p>
<p>生活指導・健康づくり</p>	<p>■ 生徒の成長を社会全体で支え、主体的に学び続ける力を育む「学び」</p> <p>【目標】生徒の健全育成と心身の健康・体力向上の推進と、きめ細かいサポートの充実</p> <p>【方策】</p> <p>1-1 コンプライアンスを徹底し、生命を大切にし、お互いを尊重する意識を醸成します。</p> <p>1-2 持続可能な開発に向けた教育（ESD）をとおして、持続可能な環境づくりと美化活動に取組み、グローバル感覚を醸成します。</p>	<p>【目標】生徒の健全育成と心身の健康・体力向上の推進と、きめ細かいサポートの充実</p> <p>【方策】</p> <p>2-1 校則について、生徒・保護者・地域・関係機関・教職員等と協議を深めて見直しを図ります。</p> <p>2-2 SNSなど「SNS山高ルール」を徹底し情報モラルやマナーを身に付けさせて、Society5.0時代を切り拓ひらくイノベーション人材を育成します。</p>	<p>【目標】生徒の健全育成と心身の健康・体力向上の推進、健やかな成長に向けたきめ細かいサポートの充実</p> <p>【方策と数値目標】進級率100%、卒業率100%</p> <p>3-1 教員間で生徒指導に差がないように、校則の見直しを引き続き深化させるとともに、時間講師等を含めた毎朝の打合せでの周知徹底、校内研修等を繰り返し実施する等、指導の共通化を図ります。</p> <p>校則の点検と見直しについては（教育庁指導部高等学校教育指導課</p>	<p>評価【C】 進級率 89.5%、卒業率 99.4%</p> <p>4-1 校則の見直しするため、学校・生徒・保護者の代表者による話し合いを3回実施し、「生徒の心得」を作成した。今後、周知・徹底を図る。</p> <p>4-2 全教職員による統一した生活指導の実施には課題が残った。共通した指導ができるよう年度当</p>

	<p>1-3 人権尊重の理念を定着させ、あらゆる偏見や差別をなくす教育を充実します。</p> <p>1-4 生命を大切にす心や他人を思いやる心、規範意識等を育む教育を充実します。</p> <p>1-5 いじめ防止等の対策や自殺対策に資する教育を推進します。</p> <p>1-6 生徒に寄り添い向き合う指導を充実させて、グラデュエーション・ポリシーにおける「社会性」、「主体性」、「実行力」の育成を図ります。また、リーダーシップ力を向上させながら、規範意識の向上を図り、18歳成年に相応しい立ち居振る舞いを身に付けさせます。</p> <p>1-7 生徒に時間を守る意識を育成するため、令和7年度「ノーチャーム制」導入をめざします。そこで、授業開始のチャームとともに授業開始を厳守させます。</p>	<p>2-3 学校行事・生徒会活動・部活動は、生徒が主体となって、準備・実施・片付け・引き継ぎができるように立案・実施・評価・見直しを実施して、18歳成年に相応しい立ち居振る舞いを身に付け、真の自立を図ります。</p> <p>2-4 「特別支援コーディネーター連絡会」を週1回（月曜日3時間目）開催し、特別支援教育コーディネーターがスクールカウンセラーと連携して、個別の支援や個別の教育相談活動の充実化と、ソーシャルスキルや非認知能力の向上を図るなど、生徒の自立と自律に向けた教育を推進します。</p> <p>2-5 セーフティ教室・薬物乱用防止教室等とおして、生命尊重の精神を養うと共に自殺対策、いじめ防止に資する教育の推進、SNS東京ルールへの浸透を図り、豊かな人間関係の構築と情報社会を生き抜く資質・能力の向上をめざします。</p>	<p>3教指高第36号)のとおりすすめます。</p> <p>3-2 教職員等（TEAM山高）全員による統一した生活指導により、衛生的で、安全・安心な学習環境を整えて、健全な心身の育成を図ります。</p> <p>3-3 教職員が、クリーンデスクを含めた執務室の5S（整理・整頓・清潔・清掃・躰）に徹底して取り組み、生徒に模範を示します。</p> <p>3-4 町田の丘学園の支援の下、特別支援コーディネーター連絡会を中心に、教室等のユニバーサルデザインを推進し、特別支援教育の充実を図ります。</p> <p>3-5 教職員が率先するとともに関係機関や保護者と連携して、自転車ヘルメット着用を推進します。</p> <p>3-6 避難訓練や防災教育を見直し、避難所開設や帰宅訓練等、地域、関係機関、保護者を含めた内容へ改善を図り、実践的な力を養います。</p>	<p>初に校内研修会にて徹底した確認が必要である。</p> <p>4-3 クリーンデスクを含めた執務室の5S（整理・整頓・清潔・清掃・躰）を意識して取り組ませたが、今後も継続して取り組んでいく。</p> <p>4-4 特別支援コーディネーター連絡会から教室等のユニバーサルデザインについての発信を行ったが、担当者によってバラつきがあり、今後も一層の徹底を図る。</p> <p>4-5 自転車乗車時のヘルメットの着用が定着しておらず、今後、さらに推進していく必要がある。</p> <p>4-6 年4回の避難訓練の実施とは別に、新たに災害時帰宅訓練を4月に実施した。今後も継続して実施していく。</p>
<p>進路指導</p>	<p>■ 生徒の個性と成長に合わせて意欲を引き出す「学び」</p> <p>【目標】世界に羽ばたくグローバル人材の育成</p> <p>【方策】</p> <p>1-1 アドミッション・ポリシーを基に、人権教育、主権者教育等を実施して、18歳成人に相応しい立ち居振る舞いのできる主権者を育成します。</p> <p>1-2 グラデュエーション・ポリシーにおける「創造力」、「表現力」、「課題発見力」を育成し、変化する社会に柔軟に対応する力を養います。</p> <p>1-3 国際交流を更に推進するとともに、TOKYO GLOBAL GATEWAY</p>	<p>【目標】夢と志をもち、可能性に挑戦しようとする力を育む教育</p> <p>【方策】</p> <p>2-1 1年生から3年生までの面接指導を全校体制で組織的に実施し、生徒理解を深めながら、生徒の進路意識を高めさせます。</p> <p>2-2 「総合的な探究の時間」における体験活動等が進路実現に関係していることを生徒に指導し、入学時からのキャリア教育と重ねあわせて、「創造力」「課題発見力」を向上させ、18歳成年に相応しい立ち居振る舞いのできる主権者を育成します。</p> <p>2-3 「総合的な探究の時間」において、アウトプットすることに重点</p>	<p>【目標】高いレベルでの進路実現の達成率向上</p> <p>【方策と数値目標】進路決定率100%</p> <p>3-1 多様な進路希望に対応するために、「面接対策（年3回以上）」を1学年から3学年まで実施します。その際に、1・2年生は、非行防止や不登校未然防止を意図して、夏季休業期間前までに実施します。3年生で校長推薦が必要なのは8月28日までに校長面接を実施し、全教職員で生徒の進路実現を支援します。</p> <p>3-2 町田市や山崎町を焦点化した探究学習に取り組み、「山崎サミット」を開催する等、関係機関や地域住民と意見交換をしながら持続可能</p>	<p>評価【B】</p> <p>進路決定率96%</p> <p>4-1 全学年対象に「面接対策（年3回以上）」を実施した。実施導入2年目ということもあり、生徒教員ともにこの面接対策を有効に活用できた。特に3年生は意欲的に取り組み、総合型選抜による国公立大学合格者を10年以上ぶりに2名輩出することができた。</p> <p>4-2 外部探究支援員の意見も踏まえた昨年度の振り返りを生か</p>

	<p>(TGG)等を活用してコミュニケーション能力の向上を図ります。</p> <p>1-4 海外のユネスコスクールと交流するとともに、国内ユネスコスクールとも交流ができるように充実化を図ります。</p> <p>1-5 東京都教育委員会が推進する海外研修等、都立学校ならではの事業への参加を推進し、前例に捉われずに、都立学校としての強みを生かした教育に、積極的に取り組みます。</p> <p>1-6 ユネスコスクールとしての活動を取り入れて、生徒会・委員会活動等の拡大・充実を図り、自己の役割や責任感を果たすことにより、自己肯定感の向上を図ります。</p>	<p>を置いた指導を計画し「表現力」の向上を図り、卒業後の進路活動における面接・論文等に活用できるように深化させます。</p> <p>2-4 学習が苦手な生徒（中位層及び下位層）の学力向上に向けた取組を、引き続き、粘り強く行うとともに、得意な生徒（上位層及び中位層）が、さらに、学力を伸ばし、進路実現を果たして行けるような、講習（ゼロ限目）等を実施するとともに、模擬試験や入学選抜等の分析会を計画・開催します。</p> <p>2-5 英語以外の外国語（韓国語等）に直接触れられるように工夫をして慣れ親しめるようにします。</p>	<p>な開発に向けた教育（ESD）の充実化を図ります。</p> <p>3-3 「タウンウオーク」を新設し、町田山崎町をフィールドにした1年次からの探究学習の充実を図り、地域に目を向けた教育活動を推進します。</p> <p>3-4 玉川大学及び桜美林大学との連携を深め、高等教育について理解の深化を図り、キャリア教育の充実化を図ります。</p> <p>3-5 町田青年会議所及び町田山崎団地商店街等との交流を深め、生徒の社会化を図り、地域の教育力を活用したキャリア教育を推進します。</p>	<p>し、「第2回山崎サミット」を開催した。</p> <p>4-3 1学年の4月に「タウンウオーク」を実施した。次年度も事前事後学習をさらに充実させ、実施する。</p> <p>4-4 2学年で東京海洋大学のキャンパス訪問実施など、連携大学以外にも高等教育の理解のための取り組みを実施した。</p> <p>4-5 総合的な探究の時間を中心に地域と連携したキャリア教育を実践した。次年度も今年度の振り返りから、さらなる改善を図る。</p>
<p>特別活動等</p>	<p>【目標】特別活動等の充実化 【方策】</p> <p>1-1 生涯を通じて、たくましく生きるために必要な体力を育む教育を推進します</p> <p>1-2 健康で充実した生活を送るための力を育む教育を推進します</p> <p>1-3 危険を予測し回避する能力や、社会の安全に貢献できる資質・能力を育む教育を推進します。</p> <p>1-4 生徒会が中心となって、学校行事の一層の充実を図り愛校心や帰属意識、郷土理解、リーダー性を高めます。</p> <p>1-5 生徒会活動の活性化を図り、生徒の主体的な参加を通じてスポーツや文化活動に親しみ、これまで培ってきたオリンピック・パラリンピック教育の活動を「東京2020レガシー」の構築に向けて、さらにその先に社会で活躍するために必要な力を身に付ける教育を推進します。</p> <p>1-6 図書室の利用を促進し、読書活動をさらに推進させ、国語力や表現力を養わせ、読書意欲の向上と未</p>	<p>【目標】学校行事や生徒会活動によるリーダー養成 【方策】</p> <p>2-1 地域の社会人等と連携を図り、学校内外を問わず、発表・実践を通して、知識・技能の伸長を図るとともに、主体性と主権者意識を育てます。</p> <p>2-2 学校行事や生徒会活動では、生徒が主役となり生徒自身が企画・運営（清掃・片付け・改善・引き継ぎを含む）して、達成感と成就感等を体験させて、自主自立を図ります。</p> <p>2-3 生徒委員会活動を重視し自主自立の精神やリーダーシップを育成して人間力の向上を図ります。</p> <p>2-4 「行事の山高」として、新たな取組や時代にあったオリジナリティを生み出していきます。</p> <p>2-5 部活動等の安全・充実の向上を図るため、学校規模（人・施設・予算）に見合った規模へ「選択と集中」を図り、地域や連携大学からの外部指導員等を積極的に活用するこ</p>	<p>【目標】リーダーの養成 【方策と数値目標】 ボランティア参加者100名以上、図書貸出冊数一人4冊以上</p> <p>3-1 ユネスコスクール認定校の特色を踏まえて、生徒委員会数を増やし、生徒一人一人に役割を与えて、社会性を育むとともにコミュニケーション能力、課題解決能力や責任感等の深化を図り18歳成年年齢に相応しい主権者意識を身に付けさせます。</p> <p>3-2 オリンピック・パラリンピック教育への2020レガシーの取組から、文化祭や体育祭等における来客者への「おもてなし」行動を意識化させて、「行事の山高」の向上と体力向上を図ります。</p> <p>3-3 部活動は、部長会を毎月定期的に開催し、リーダーの育成と、自主自立の向上を図ります。</p> <p>3-4 オリエンテーション期間と各学期はじめに図書館からのガイダンス等を実施して、図書活動の充実を推進します。</p>	<p>評価【C】 ボランティア参加者170名、図書貸出冊数一人約2.3冊</p> <p>4-1 全校生徒が一人一委員会に所属して役割を持ち、課題解決に取り組んだ。</p> <p>4-2 文化祭、体育祭での「おもてなし」行動を徹底するためにセキュリティを強化し、体育祭は来場者登録を行ったため、来場者は目標数に届かなかった。</p> <p>4-3 部長会の活動を充実させ、競技成績だけでなく、優れた活動をした部活動を年度末に部長会から表彰を行った。</p> <p>4-4 図書貸し出し冊数は目標に届かなかったが、図書館利用者数</p>

	<p>読率の解消を図るとともに、ビブリオバトル（書評合戦）等に積極的に参加します。</p>	<p>とを推進して、部活動の推進を図ります。</p> <p>例：部活動顧問を兼任することを最大限に解消するとともに、教職員も生徒も活動が分散することがないように、活動曜日や活動時間を整頓して、学習活動と特別活動の安全・安心の向上を図ります。</p>	<p>3-5 ラウンジを活用して、学校生活の充実感向上が図れるような取り組みを検討します。</p> <p>3-6 ユネスコスクールとしてSDGsを推進し、地域とともに取り組み「GreenDay」を新設し、年間3回、定期考査後に全学年で実施します。</p>	<p>は4661名に上り、昨年度を350名以上上回った。</p> <p>4-5 ラウンジにパネル展示やディスプレイを設置して、学校の取り組みを随時紹介した。</p> <p>4-6 新たに7月にGreenDayを実施した。実施時期や生徒の主体的な取組が次年度の課題である。</p>
<p>家庭・地域との連携 協力・交流 活動、学校 広報活動</p>	<p>【目標】 地域・社会の教育資源を活用し、生徒を支え伸ばす教育活動の推進</p> <p>【方策】</p> <p>1-1 地域・社会の教育資源を活用し、生徒を支え伸ばす教育活動を推進します</p> <p>1-2 学校と家庭、地域・社会が一体となり、生徒を見守り、育てる教育活動を推進します</p> <p>1-3 家庭や地域（警察、児相、子家セ等）との連携を深めて、18歳成年に相応しい立ち居振る舞いができる主権者を育成します。</p> <p>1-4 学校の特色を動画等にまとめて、募集活動や学校広報に活用し、推薦に基づく選抜及び学力検査に基づく選抜（前期・後期）の応募倍率の向上を図ります。</p> <p>1-5 学校HP等の更新回数と内容の改善を図り、保護者、地域、関係機関等から、さらに信頼が高まる、開かれた学校づくりを推進します。</p> <p>1-6 地域（防災、防犯、交流イベント、環境美化）活動へ積極的に参加するとともに、海外及び国内のユネスコスクールとの交流を促進します。</p>	<p>【目標】 学校と家庭、地域・社会が一体となり、子供を見守り、育てる教育活動の推進</p> <p>【方策】</p> <p>2-1 授業公開、学校説明会、保護者会、学校行事等、保護者及び地域住民の参加者数増をめざして、開催の周知方法や内容の改善を図り、「山高」の魅力を発信します。</p> <p>2-2 山崎町や町田市と緊密に連携して避難・防災・防犯体制を常に見直し、「危機管理マニュアル」等を細やかに更新するなど、学校課題を発見・改善する校内研修を意図的、計画的に実施します。</p> <p>2-3 山崎町や町田市へ貢献できるような体験をとおして、生徒の自己肯定感の向上が図れるような連携を推進します。また、山崎町や町田市と連携して安全教育、防災教育の充実化を図ります。</p> <p>2-4 桜美林大学、玉川大学、東京家政学院大学等と連携を深めて、大学生や大学関係者等との交流をとおして、生徒の自立・自律を深化させます。</p> <p>2-5 町田市立七国山小学校及び町田市立山崎中学校と本校との連携をさらに深化させます。</p>	<p>【目標】 町田市・山崎町等地域との連携・交流</p> <p>【方策と数値目標】 学校HP更新50回以上、Instagram100回以上、授業公開、学校説明会、保護者会・学校行事等の来校者数2100名以上、学校説明会300名以上</p> <p>3-1 生徒会（委員会・部活動を含む）生徒を中心として、地域貢献活動に力を入れ、地域清掃や挨拶運動、ボランティア活動に積極的に参加させます。地域の方々にふれあい、社会の力になる体験をさせ自己肯定感を高め、非認知能力の向上を図ります。</p> <p>3-2 学校の魅力発信については、日頃の教育活動を動画にまとめ、保護者会や学校説明会等で、在学生から直接、本校保護者や中学生、中学生保護者へ発信できるように、保護者会や学校説明会等の運営方法と内容を改善します。</p> <p>3-3 「総合的な探究の時間」等の教育活動を実施するにあたり、山崎団地自治会、山崎団地名店街、町田市青年会議所、玉川大学教育学部等とともにコンソーシアム会議を年4回開催して、持続可能な地域探究に取り組みます。</p>	<p>評価【C】</p> <p>学校HP更新83回、Instagram131回、授業公開、学校説明会、保護者会・学校行事等の来校者数2755名、学校説明会822名</p> <p>4-1 生徒会（委員会・部活動を含む）の生徒を中心に地域のお祭り等のボランティア活動に参加し、地域の方々から感謝の言葉をいただいた。また、2学年の総合的な探究の時間において、山崎団地自治会と防災活動などでの連携を図ることができた。</p> <p>4-2 学校説明会において、動画等を利用して在校生から直接、中学生や中学生の保護者へ学校の様子を発信するとともに毎回の振り返りを通して、各回の改善を図り、実施することができた。</p> <p>4-3 「総合的な探究の時間」を推進していくにあたり、山崎団地自治会、山崎団地名店街、町田市青年会議所、玉川大学教育学部等とともにコンソーシアム会議を年4回開催し、今年度の振り返りをもとに次年度の地域探究活動の土台を作った。</p>

【目標】 学びを支える教師力・学校力の強化

【方策】

- 1-1 教育公務員として、高い使命感・倫理観をもって服務規律を遵守（コンプライアンス）し、生徒・保護者・地域から信頼されるように常に見直しと改善を図ります。
- 1-2 質の高い教育を支えるための環境と、質の高い学校教育を支える施設・設備等を整備します。
- 1-3 ライフ・ワーク・バランスの推進への取組を促進します（「年休・夏休取得推進週間」「定時退庁週間」等）。
- 1-4 C4th や採点システム等のデジタル技術を活用して業務の効率化（時間等）を図ります。
- 1-5 教育公務員の魅力・やりがいを発信し、誰もが「山高」に勤務したくなるような学校づくりを推進します。
教育行政や学校教育の仕事の楽しさや魅力、そして、都立学校で勤務することの充実感や達成感等、喜びが感じられる風土づくりを意識化したOJTに取り組みます。
- 1-6 地域や町田市立小中学校の声に耳を傾けて、伝統を引き継ぎ、信頼される学校経営いたします。
- 1-7 創立50周年に向けた計画を立案し、着実に発展・進化させます。

【目標】 「TOKYOスマート・スクール・プロジェクト」の推進

【方策】

- 2-1 「学び方改革」「教え方改革」「働き方改革」の3つの改革を同時に推進します。
- 2-2 コンプライアンス厳守、確実な点検確認作業を心かけて実施し、事故の未然防止を図ります。
- 2-3 教職員が執務室の5S（整理・整頓・清潔・清掃・躰）に取り組む、事故未然防止の向上を図るとともに、業務の効率化を図ります。
- 2-4 教育系と行政系の担当業務を見直し、経営企画室の負担を軽減し、経営企画機能を高め、学校経営参画を推進し、教育系と行政系の職員が組織的に連携した学校運営や施設管理を行います。
- 2-5 イクボス宣言、在宅勤務、男性育休、時差勤務、定時退庁週間・年休取得推進週間等を推進して、ライフ・ワーク・バランスを推進します。
- 2-6 登下校時や授業等で部活動指定品を活用できるように改善する等、「費用対効果」を評価して学校指定品の見直しを図ります。
- 2-7 「教育的効果」「費用対効果」を評価して学校行事、授業内容、年間計画等の改善を図ります。
- 2-8 団体旅行で観光地を巡るような国内修学旅行ではなく、卒業旅行や海外派遣研修を推進します。

【目標】 ライフ・ワーク・バランス推進と組織活性化

【方策と数値目標】 超勤時間月80時間以上ゼロ・45時間以上ゼロ、いじめや生徒事故・体罰等の服務事故ゼロ

- 3-1 法令違反やコンプライアンス違反は、遅滞なく関係機関へ連絡し、厳正なる対応を徹底します。
- 3-2 水道水、教室や廊下の床・壁・カーテン等、衛生的で安全・安心な学校生活が送れるように施設・設備等の維持・改善を図ります。
- 3-3 リサイクルステーションを各階Aコーナーに設けて、校内の整理・整頓を推進します。
- 3-4 未来を支える生徒と教職員を育成するためにICT機器等のデジタル技術を活用した校務（働き方改革、東京DX等）を推進します。
- 3-5 校内研修連絡会を毎週水曜日放課後に開催して、いじめ、体罰、ハラスメント、入学選抜、服務等の違反や事故未然防止を図ります。
- 3-6 ミドルリーダー等による校内研修等、人材育成の充実化を図り、企画調整会議や教科主任会議を活性化させ人づくりと組織づくりを深化させます。
主幹教諭が主任教諭を育成し、主任教諭が教諭へ指導・助言しながら支援をするような体制を深化させて、教育公務員としてのやりがいや成果が実感できて喜びが感じられる人材育成を図ります。

評価【C】

超勤時間月80時間以上1名、45時間以上4名、いじめ2件、生徒事故・体罰等の服務事故ゼロ

- 4-1 コンプライアンス違反はゼロであった。次年度も継続する。
- 4-2 衛生的な環境を維持するために執務室や教科準備室の清掃や机の入れ替えを行った。次年度は教室から出るごみの軽減を図るため、ゴミ箱の設置の仕方を工夫する。
- 4-3 リサイクルステーションを設置したが、年度末までにはすべての物が片付いた。
- 4-4 ノートアプリ（MetaMoji Classroom）等を活用した授業実施やTeamsを利用した配布物、Formsを利用した毎月の生活実態調査を実施し、校務の時間短縮に役立てている。
- 4-5 校内研修連絡会を毎週水曜日放課後に開催し、月に1回の職員会議以外は研修会を実施し、職員から持ち寄った様々な内容の研修を行った。
- 4-6 ミドルリーダーの育成を重要な課題とし、校内研修の講師や教科主任会議、学校運営連絡協議会の運営などを通して人材育成を図った。徐々にではあるが成長が見られたが、今後、一層の人材育成を図っていく。